

日本における台湾華語教育

東北大学大学院文学研究科准教授 張佩茹

台湾華語とは？

台湾華語という用語は、日本では2000年頃から出版物に使われはじめ、その後、徐々に認知されるようになってきた。同じく中国語とは言っても、台湾で使われる共通語は、中国大陸の共通語（いわゆる「普通話」）と異なる側面があるため、大陸の中国語と区別する意味で台湾華語という用語が生まれたわけである。「華語」はもともと東南アジアの中華系の人を使う中国語を指すのだが、台湾では外国人向けの中国語教育における中国語を指すために「華語」を使っている。そのため、台湾では「華語」を使う場合は華僑や外国人のことを意識するときであり、台湾人同士が共通語のことをいう場合は「國語」（国語）で表現するのが一般的である。

台湾華語と中国大陸の普通話の違いについて、もっとも顕著なのは文字の違いである。台湾ではいまだに繁体字を使用しているのに対し、大陸では1956年以降、漢字を簡略化した簡体字を用いている。また、発音の表記に関しては、台湾では漢字をかたどった注音符號を使っているが、大陸ではラテン文字のピンインを採用している。そのほかに、一部の漢字については、読み方を決める際の基準が異なるため、規範的な読み方に違いがみられる。声調のみ異なる場合もあれば、発音がまったく違う場合もある。声調の違いについては、例えば「期」という漢字は台湾では第二声、大陸では第一声で発音される。また、発音が大きく違う例として、前置詞や接続詞として使われる「和」はピンインで表記すると、台湾では hàn と読み、中国では hé と読む。

そのほかに、語彙が異なる場合もある。例えば、改札口のことを台湾では「剪票口」（切符にハサミを入れるところ）というが、大陸では“检票口”（「検票口」、切符を確認するところ）という。この例に関しては、たまたま「剪」と“检”は発音が同じなので、話すときに気付かれにくいだが、書くときにその違いが現れる。さらに、日常的によく使う表現が若干違う場合もある。例えば、「おはよう」という挨拶語は台湾では「早安」、いっぽう大陸では“早上好”という。

以上で台湾華語と普通話の違いをいくつか取り上げてきたが、それらの差異があっても基本的に意思疎通が阻害されることは少ない。なぜならば、ベースが同じであり、台湾華語も普通話も、北京語を中心とする北方語に基づいているからである。

日本の民間における台湾華語のニーズ

日本では通常、中国語と言えば前述した普通話指すことになるが、台湾の中国語、つまり台湾華語にも一定の需要がある。民間で台湾華語が学べる場所として、台湾系の中華学校が提供している語学授業があげられる。そこには中華学校の生徒の親や台湾に興味をもつ人が通う。また、台湾出身の先生個人に付いて勉強する場合もある。近年はそれらに加え、名称に「台湾華語」をつけて、台湾華語が学べることをアピールしている文化センターの講座や企業が経営している語学教室が現れている。一例として、2014年に名古屋の栄中日文化センターで台湾華語の講座がスタートし、現在は3講座が開講されている。その講座の担当講師の話によると、受講者のなかには5年間、合

計 40 回以上も台湾に渡航している方がいるという。このように、台湾華語の教室の増加によって、台湾に関心のある日本人にとって台湾華語が学べる場所がより身近になっている。

民間のこの需要は、出版物の状況にも反映されている。詳細は付録を参照されたいが、国立国会図書館サーチで検索した結果では、第 2 版や新装版なども含めると、2000 年～2021 年の合計 22 年間に日本で出版され、かつタイトルに「台湾華語」がついている書籍は合計 33 冊である。前半の 11 年間(2000 年～2010 年)はたったの 6 冊だったのに対し、後半(2011 年～2021 年)は 27 冊も出版されている¹。また、直近の 2020 年に 6 冊、2021 年に 5 冊が出版されたことを考えると、出版のペースが上がっている傾向である。さらに、語学教材や参考書の性質上、聞く・話すための語学勉強に使うには、音声データが必要不可欠であるが、CD やウェブ音声、音声ダウンロードサービスが提供されるものも、2012 年以降に現れ、日本人学習者にとって台湾華語がいっそう勉強しやすいものとなった。題材に関しては、33 冊のうち、旅行関連の書籍は 12 冊もあり、約 3 分の 1 を占めている。旅先で使える単語やフレーズなどを紹介する書籍の需要が高いことが伺われる。このことは、日本人観光客に人気のある海外旅行先として、台湾が上位にランクインしていることに関連する。台湾の交通部観光局の観光統計データベース (<https://stat.taiwan.net.tw/>) の検索結果に基づくと、2015 年に台湾を訪れた日本人は延べ約 163 万人だったが、2019 年には約 216 万人まで成長していた。なお、この数字は観光以外に、ビジネス出張や留学など、ほかの目的で台湾に入国した場合も含まれているため、増加した延べ人数がすべて観光目的だったとは言えないが、観光客も増加傾向にあることは間違いない。その後の 2020 年と 2021 年はコロナの影響で観光目的の往来はほぼ断たれている状態であるが、日本国

内で開催される台湾祭や台湾フェスタなどで台湾観光の疑似体験ができる。

日本の学校における台湾華語のニーズ

通常、日本の学校教育において中国語は第二外国語として位置づけられ、大学や一部の高校で授業として提供される。学校教育の中国語といえば、大陸の普通話のことを指すが、わずかながら台湾華語の授業が提供される場合もある。ここでは事例紹介として、異なる大学での 2 つの科目を取り上げることにする。

1 つ目は、拓殖大学の外国語学部で開設されている、2 年次以上の学生向けの選択科目である「台湾語」という授業。「台湾語」という授業名だが、方言の閩南語だけでなく、台湾華語もカリキュラムに含まれている。この場合の「台湾語」は「台湾の言語」を意味する広義的な用法である。この授業では履修生が台湾の言語や文化について学習する。

2 つ目は、法政大学キャリアデザイン学部で開設されている、体験型選択必修科目の 1 つである「キャリア体験事前指導・実習(国際・台湾コース)」という授業。夏休み中に実施するインターンシップに向けて、春学期の授業では台湾の文化や歴史、言語について学ぶ。そこで台湾華語の基礎を教わるのである。本来ならば、実際に台湾でインターンシップを実施するのであるが、2020 年度はコロナの影響により、台湾人学生との交流は SNS を活用し、インターンシップもオンラインで実施されることになった。純粋な語学の科目ではないが、授業の一環として台湾華語の学習が組み込まれたことに重要な意味をもつ。この授業では台湾人の大学生との交流や、台湾の企業での研修を通

1 タイトルに「台湾語」がついている書籍に、台湾華語の内容も盛り込まれているものがあるが、今回は台湾華語のみの書籍に限定した。

じて、台湾華語を実践する場を提供している。

次に、日本の高校に目を向けると、台湾との関係について2つ特筆すべきことがある。1つはコロナ前の日本の中学校や高校の海外修学旅行先として、延べ件数で計算すると2014年以降、台湾はずっと1位を占めていたことである。しかも、その割合が上昇傾向であった。具体的な数字でいうと、全国修学旅行協会の調査によれば、2018年、海外修学旅行を実施した中学校や高校の20.4%は、旅行先として台湾を選んだ²。また、その翌年である2019年には25.2%にも達した³。それは、海外修学旅行件数の全体の4分の1を占める割合であった。また、全国修学旅行協会の調査に協力した中学校と高校の数の割合が約1対10ということを見ると、海外修学旅行に参加した多くは高校生であったことになる。この渡航経験が台湾について、ひいては台湾華語について関心をもつきっかけとなるであろう。

もう1つは近年、台湾の大学へ進学する日本人学生が増えていることである。台湾の教育部（日本の文部科学省相当の組織）統計処が公表している正規留学生のデータを図にすると、図1の上の折れ線のようになる⁴。その折れ線の形から分かるように、2012年以降、日本からの正規留学生は年々増加傾向にある。正規留学生とは、学位取

得のために台湾の高等専門学校や大学学部、大学院修士課程、大学院博士課程に在籍する学生のことである。つまり、正規留学生の人数に学部留学生在が含まれている。正規留学生と学部留学生のみ的人数を並べて比較すると、図1の2本の折れ線が示すようになり、正規留学生の増加分は、実はほぼ学部留学生の増加人数から来ていることが分かる。台湾の大学に進学した日本人の学部留学生は、2012年の260人から2019年の1541人まで増加し、6倍近く成長した。

台湾留学を目指す日本人高校生は、留学準備として台湾華語を学習する場合がある。そのため、積極的に海外進学を推進する高校に台湾出身の講師が派遣され、台湾華語の授業が提供される。台湾の大学へ学部留学するメリットとして、「英語と中国語を同時に習得できる」ことが宣伝文句として使われているが、台湾の中国語というと、台湾華語のことである。また、英語の習得については、国際化を推進するために、一部の台湾の大学において全科目を英語で行う学科が設置されてい

2 <https://jstb.or.jp/files/libs/1676/201910231126303283.pdf>

3 <https://jstb.or.jp/files/libs/2100/202010051652103909.pdf>

4 <https://depart.moe.edu.tw/ed4500/News.aspx?n=5A930C32CC6C3818&sms=91B3AAE8C6388B96>（アクセス日：2021/12/8）

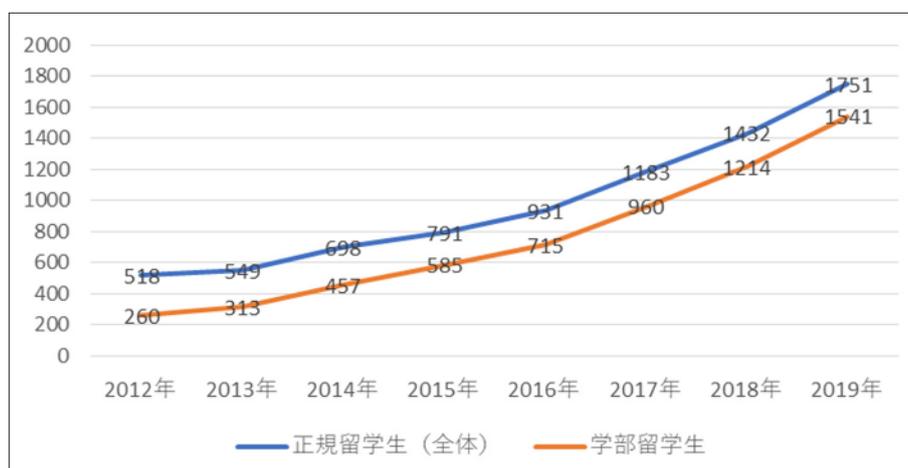


図1. 台湾の大学に在籍する日本人学生の人数推移

る。英語で授業が行われる学科に入る場合、大学出願時に中国語の能力は問われないが、現地での生活に中国語が必要なため、自然とある程度中国語を習得することになる。また、大学によっては「1 + 3 システム」と呼ばれるコースが設置されており、そのコースでは1年次の勉学は中国語の習得が中心となり、2～4年次は専門分野の勉強を進め、最終的に卒業要件をすべて満たせば、学士の学位が授与される。

高校卒業生の進学先として台湾の大学が選ばれる理由に、学費が安い（年間30万円～50万円程度）、物価が安い（日本の約2分の1）、親日的で暮らしやすいなどがあげられるが、台湾留学サポートセンターによると、実際の留学経験者の口コミも大きく貢献しているという。台湾に留学中、もしくは留学経験をもつ人が身近にいると、留学を検討する際に良い参考となる。2010年に設立された当センターは現在、日本の高校100校以上と提携し、高校生の台湾留学に関するサポートをしている。そのほか、情報発信の一元化も功を奏している。2012年に設立された台湾教育センターは毎年3月と11月に台湾留学フェアを主催し、フェアに協力してくれる台湾の大学と台湾留学に興味のある日本人生徒をつなげる場を提供している。こうした地道な広報活動が少しずつ実を結び、

日本人留学生の増加につながっている。留学生の増加は、また台湾華語教育の需要の増加につながる。

中国語能力試験 TOCFL について

台湾の大学に出願する際、もしくは奨学金を申請する際に中国語能力の証明書の提出が必要な場合があるが、そのときに求められるのは TOCFL (Test of Chinese as a Foreign Language) の成績である。2003年に正式に実施が始まった TOCFL は中国語（台湾華語）を母語としない者を対象とする能力試験であり、台湾政府が公式認定したものである。

TOCFL は中国語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をそれぞれ測定する試験が開発されているが、日本で受験できるのは「読む」と「聞く」の2種類のみである。台湾の国家中国語能力試験推進委員会によると、近年、日本での TOCFL 受験者の延べ人数の推移は図2の通りである。

図2から読み取れるように、2015年から受験者数が年々増えている状況である。2015年と2020年を比較すると、約3倍増加している。この増加幅は、日本において台湾華語への認知度が高まり、かつ台湾華語の学習環境が少しずつ整っ

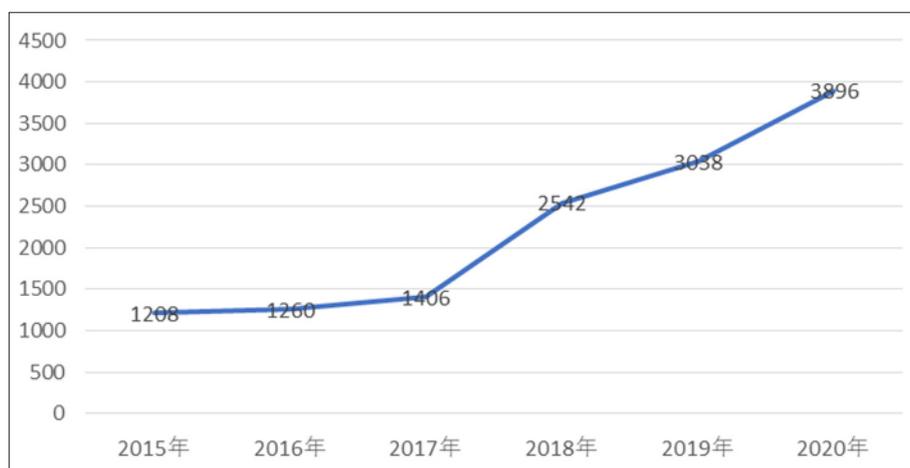


図2. 日本での TOCFL 受験者数 (延べ人数)

ていることを反映している。

いっぽう、日本で中国語の検定試験として知名度が高いのは中国語検定（いわゆる中検）と中国語政府公認の HSK である事実も認めざるをえない。HSK の公式ホームページで公表しているデータによると、2018 年の日本での HSK 受験者数は 34,018 人だった。同年に TOCFL の受験者数が 2,542 人だったことを考えると、その差は歴然としている。TOCFL が直面している問題は、海外でどれだけ検定試験として認めてもらえるか、ということであるが、HSK や中検と競争するのではなく、共存を目指し、台湾華語に興味関心がある日本人学習者に、中国語能力試験の選択肢の 1 つとして提供し続けることに意味があると筆者は考える。

まとめ

以上で見てきたように、近年、日本と台湾の間で、観光や留学などを介して、人的交流がますます盛んになっている。台湾人と中国語でコミュニケー

ションを取りたい、もしくは台湾へ留学したい、ということになると、台湾華語の学習が重要となってくる。そういう背景もあり、日本において台湾華語の教材が少しずつ充実し、台湾華語が学べる教室も増えている。今後、日台交流が活発である限り、台湾華語教育の需要は続く見込みである。このように、日本における台湾華語に関する認知度が上がっていることは喜ばしいことである。しかしながら、台湾華語の「特殊性」を強調しすぎてはならない。確かに台湾華語特有の語彙や表現はあるが、中国語として十分な汎用性を備えている。台湾華語をしっかり学習すれば、中国に行っても意思疎通ができる、というスタンスで教育することが、台湾華語教育の活路になるだろう。

付記：本稿を執筆する際に、台湾教育センター、台湾留学サポートセンター、国家中国語能力試験推進委員会および中国語教育関係者の友人より様々なご教示をいただいた。この場を借りて謹んで感謝の念を述べたい。

付録：日本で出版された「台湾華語」の書籍の一覧表

	出版年月	書名	音声	著者	出版社
1	2000.3	台湾：台湾華語（中国語）ここ以外のどこかへ！旅の指さし会話帳 8		片倉佳史	情報センター出版局
2	2004.2	台湾華語（中国語）第 2 版ここ以外のどこかへ！旅の指さし会話帳 8		片倉佳史	情報センター出版局
3	2008.3	ふれあい会話帳：日本語（富山弁）＝台湾華語（中国語）”普段着のニッポン”を立山の里で		立山自然ふれあい館国際交流委員会	立山自然ふれあい館
4	2008.9	台湾華語 ビジネスの指さし会話帳 4		光瀬憲子	情報センター出版局
5	2009.9	台北：台湾華語 旅の指さし会話帳 mini		片倉佳史	情報センター出版局
6	2010.5	中国語は台湾で学べ：台湾華語のススメ		日台学生交流会編	日台学生交流会
7	2011.6	中国語は台湾で学べ：台湾華語のススメ（第 2 版）		日台学生交流会編	日台学生交流会
8	2011.12	YUBISASHI × ハローキティ 台北：台湾華語 旅の指さし会話帳 mini		片倉佳史	情報センター出版局
9	2012.2	中国語は台湾で学べ：台湾華語のススメ（第 3 版）		日台学生交流会編	日台学生交流会
10	2012.6	バッチリ話せる台湾華語：すぐに使えるシーン別会話基本表現	CD	渡邊豊沢 監修	三修社

略語の説明：DL（音声ダウンロード）、Web（ウェブ音声）

11	2015.9	小道迷子の知ってトクする台湾華語		渡邊豊沢 著 / 小道迷子 画	三修社
12	2016.4	街ぶら台湾華語:旅先ですぐに使えるフレーズ & 単語帳	DL	樂大維	国際語学社
13	2016.8	小道迷子の台湾からようこそ日本へ:台湾華語でおもてなし		渡邊豊沢 著 / 小道迷子 画	三修社
14	2017.2	今日からはじめる台湾華語	CD	樂大維	白水社
15	2017.6	台湾華語 & 繁体字練習帳:書き込み式		樂大維	アスク出版
16	2017.6	おいしい台湾華語:好吃!台湾	CD	郁青、高向敦子	IBC パブリッシング
17	2017.12	街ぶら台湾華語:旅先ですぐに使えるエッセイ風フレーズ & 単語帳 新装版	DL	樂大維	アスク出版
18	2018.5	デイリー日本語・台湾華語・英語辞典	Web	樋口靖 監修	三省堂
19	2018.6	旅する台湾華語:台湾好好玩!	CD	簡希蓁、高向敦子	IBC パブリッシング
20	2019.3	旅の台湾華語:伝わる会話 & フレーズブック	DL	樂大維	アスク出版
21	2019.5	リアルな日常会話を楽しむ台湾華語 60 表現	CD、DL	渡邊豊沢	三修社
22	2019.8	デイリー日本語・台湾華語・英語 3 か国語会話辞典	Web	李麗秋、樋口靖 監修	三省堂
23	2020.1	旅するこどもの台湾華語 台北編		コンデックス情報研究所編著	成美堂出版
24	2020.3	3パターンで決める日常台湾華語会話ネイティブ表現	DL	潘凱翔	語研
25	2020.4	恋する台湾華語:談談戀愛在台湾		高向敦子、許玉穎	IBC パブリッシング
26	2020.5	日本人が知りたい台湾人の当たり前:台湾華語リーディング		二瓶里美、張克柔	三修社
27	2020.12	台湾華語でぐるっと台湾めぐり	DL	樂大維	白水社
28	2020.12	キクタントラベル台湾華語:聞いてマネしてすらすら話せる	DL	渡邊豊沢	アルク
29	2021.3	台湾華語単語はじめの 1000		林虹瑛	アスク出版
30	2021.4	もっと知りたい台湾華語:台湾の標準語	CD、DL	張佩茹	白水社
31	2021.11	小飛さんの今日から話せる台湾華語!	DL	小飛	ベレ出版
32	2021.12	日常台湾華語会話フレーズ Best 表現 1100	DL	樂大維	明日香出版社
33	2021.12	ゼロから 1 人で台湾華語	CD、DL	林斯啓、欧米・アジア語学センター	あさ出版

*国立国会図書館サーチのデータに基づいて作成。